

ふくしまの森林文化調査カード

No.19

県 HP公開 (可 ・ 否)

区 分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	<input checked="" type="radio"/> 3. 森と技 6. 森の風景
分野(ふりがな)	(分野) 加工(編み組細工)	(ふりがな) かこう(あみくみざいく)	
地域独特の呼び方	—	—	
氏名(ふりがな)	五十嵐 文吾	いがらし ぶんご	
性別・年齢	<input checked="" type="radio"/> 男 ・ 女	89歳	
生年	明治 ・ <input checked="" type="radio"/> 大正 ・ 昭和 ・ 平成	11年生	
住所・電話	〒969-7402 連絡先: 大沼郡三島町名入字諏訪ノ上395 奥会津三島編組品振興協議会(三島町生活工芸館内) 電話: 0241-48-5502		
職 業	編み組細工		
活動年数	約50年		
活動場所	奥会津一円(大沼郡三島町中心)		
活動内容	奥会津編み組細工は、雪深い農閑期の冬仕事として代々受け継がれてきた手技で、その歴史は縄文時代まで遡ることができる。荒屋敷遺跡(三島町・縄文晩期:約2,500年前)からは縄や各種編組等の約一万点の籠類遺物が出土している。奥会津編み組細工は縄文の文化を継承している生活のための伝統工芸品である。山ブドウ細工・マタビ細工・ヒロロ細工は平成15年に国の伝統的工芸品に指定されている。五十嵐文吾氏は50年の経験に基づき、自身でマタビを採取し、カゴや箆を編むマタビ細工の第一人者である。「奥会津編み組細工伝統工芸士会」の会員であり、マタビ細工の伝統的工芸品の第1号工芸士に認定されている。		
文化財等の指定状況	2003(平成15)年「伝統的工芸品」(経済産業大臣指定)、2004(平成16)年「森の名手・名人100人」(社国土緑化推進機構選定)		
問い合わせ先	奥会津三島編組品振興協議会(三島町生活工芸館内)(Tel: 0241-48-5502)		

【フリーフォーマット】

キーワード	
<p>◇奥会津三島編組品 振興協議会(三島町生活工芸館内)</p>	<p>2003(平成15)年工人の方々により設立された任意の団体で、現在は127名の方々が物づくりに励んでいる。 * 三島町ではものづくりする人を工人(こうじん)と呼んでいる。</p>
<p>◇奥会津編み組細工</p>	<p>大沼郡三島町の荒屋敷遺跡において、縄や籠の編み組等の断片が発掘されており、縄文時代より編み組の技術・技法が存在したことが明らかとなっている。「会津農書」には、会津地方において野草の縄をもって籠を作っていると記されており、「東遊雑記」には、現在の三島町近郊において山菅(ヒロロ)を材料として蓑などの編み組細工が作られていると記されている。また「伊那伊北谷四ヶ組風俗帳」には、マタビの蔓を細くして「箆」を作り、山ブドウの皮で袋網(籠)を作っていたと記述されていることから、この時代においても、ヒロロ細工、マタビ細工、山ブドウ細工が日常の生活用品として作られていたことがうかがわれ、今日まで受継がれている。三島町においては、昭和40年代から高齢化により、編み組細工製造従事者が減少していることから、数百年來受継がれてきた技術・技法を維持・伝承するとともに自然との共生を目指す生活工芸品を地域産業として進出し発展することを目的とし、編み組細工の技術指導、品質管理、需要開拓等の「生活工芸運動」を重点施策として推進してきており、今日では従事者も増加してきている。(日本の伝統的工芸品館・財伝統的工芸品産業振興協会より)</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">(写真:左 五十嵐文吾氏制作風景 右 五十嵐文吾氏製作の籠、箆)</p>	